

新たな農業資材製品化へ

保土谷化学・朝日アグリア 両社長に聞く

複合農業資材の共同開発に乗り出した保土谷化学工業と朝日アグリア。環境重視型農業資材（保土谷化学）の実現と地域循環型農業（朝日アグリア）への貢献に向け、両社の技術・製品の組み合わせにより農業でも肥料でもない新たな農業資材（バイオスティミュラント）の製品化を目指す。すでに両社ではフィールド評価と量産技術の検討に着手している。保土谷化学の松本祐人社長と朝日アグリアの村上政徳社長に、新たな取り組みに対して期待するところなどを聞いた。

市場・用途開拓も合わせて一緒に

ー両社で新しい複合農業資材を開発することになった背景を教えてください。

松本 以前から保土谷化学では過酸化水素の誘導品を農業分野へ展開してきた。酸素供給剤もその一つであり、堆肥と組み合わせることでエネエンプラスアルファが得られることを期待し、共同開発および市場・用途開拓を一緒にやっていたいと思ったのがきっかけだ。

村上 3年ぐらい前に「堆肥を極める」というキャッチフレーズのもと、新たな市場創出に動き出した。当時は有機肥料や堆肥が注目されてい

なかったが、温暖化対策やウクライナ問題などともなう化成肥料の高騰などにより国内の未利用資源の活用観点から注目が高まっている。畜糞堆肥が技術の源泉だが、堆肥の有効性や価値を高めたいと普及しない。そのためには違う分野の見識が必要との考えから一緒に取り組むことにした。

協働で目指すところ。松本 当社の農業用過酸化水素とその開発力、朝日アグリアが保有する堆肥とその製造技術を生かして新たな農業資材を開発すること。その最初の取り組みが酸素供給剤ということになる。堆肥により栄養を与える、酸素供給剤で酸素を与え、好気性微生物が活性し、土そのものが元気になる。堆肥の吸収も良くなるのではないかと期待がある。バイオスティミュラントとして植物や生物が元気になる効果を期待しており、開発できたリースとして面白いと思う。

保土谷化学
松本 祐人 社長

朝日アグリア
村上 政徳 社長

村上 肥料メーカーとして常に刺激を外に求めて違う発想で新しいものを生み出すバイタリティやメカニズムは欲しいと思っている。畜糞堆肥は土壌に合わせた成分調整を行っており、その観点から栄養素以外のものを配合することもあつて然るべきだろう。その発展系はいろいろ考えられるのでスピード感を持って



取り組んでいきたい。ー将来的に期待するところを聞かせてください。

松本 当社のアグロサイエンスセグメントについては、酸素供給剤をはじめ農業用過酸化水素がかなりのポテンシャルを有していると感じている。また、地方自治体が進む稲作から畑作への転換では、水田を畑に変える際に湿害対策が重要だ。こうした点を踏まえ、現中計では事業強化領域の一つとしてアグロサイエンスセグメントにおける農業用過酸化水素の強化を掲げており、これを実現するための取り組みの一つとして捉えている。

村上 堆肥を極め新しいマーケットを作ろうと取り組んでおり、地産地消で広げていく必要がある。地域によってリースも異なるため、堆肥をベースに配合調整することに対応している。今後、堆肥の高付加価値化をキーワードに取り組みを推進すること、単なる肥料の販売にとどまらず、リースに際してソリューションとして提供できるようにしていきたい。（小池次郎）

酸素供給剤と堆肥で相乗効果

＊バイオスティミュラントは植物や土壌により良い生理状態をもたらす物質や微生物のことです。植物や周辺環境が持つ自然な力を生かして植物に良好な影響を与える効果を有する。